

地鎮祭 式次第(司会者台本)

※斎場への入場は、①施工者
②設計者 ③来賓 ④施主
⑤神職の順に入場します。

施工者からの
よくあるお問い合わせ

行事	作法	典儀(司会者台詞)
開式の辞	斎主(神職)が自席に着く	「ただいまより〇〇邸地鎮祭を執り行います。」
修祓	斎主が自席に着いた後	「先ず、修祓。」
	斎主が神前にて再拝を始めた後	「ご起立の上、ご低頭ください。」
降神の儀	祓詞奏上し終えたら	「お直りの上、ご着席ください。」
	斎主が大麻を持ち、参列者の前に立つた時	「お祓いたします。ご起立の上、ご低頭ください。」
	祓えが終わった後	「お直りの上、ご着席ください。」
	斎主が自席に着いた後	「次に降神の儀。」
献饌	斎主が神前にて再拝を始めた後	「ご起立の上、ご低頭ください。」
	降神詞奏上・警蹕(オーという掛け声)し終えたら	「お直りの上、ご着席ください。」
祝詞奏上	斎主が自席に着いた後	「次に、献饌。」
	斎主が神前にて再拝を始めた後	「次に、祝詞奏上。」
四方祓い	祓詞奏上し終えたら	「ご起立の上、ご低頭ください。」
	斎主が自席に着いた後	「お直りの上、ご着席ください。」

申し込みについて

建築のお祭りを申し込む場合は、神社の祭典・行事等と重なっている場合もありますので、前以って日時を申し出ましょう。また、その際に、施主名、設計者名、施工者名、現地の住所や連絡先など内容(祭典の種類・準備品・迎えの有無等)を打ち合わせしましょう。

なお建築場所の氏神社へ申し込むのが一般的です。

建売物件の地鎮祭について

どのような物件であっても、事業主(施主)が建物を建てる場合、地鎮祭をして、土地の神さまにご奉告しましょう。

建築業者に対しての物件について

住民の方々に建築をご理解頂いた後に申し込みましょう。

地鎮の儀

刈初の儀
穿初の儀
鎮物理納の儀

齋主が自席に着く

齋主が鎌を手に取る（鎌入れ）

齋主が鋤を手に取る（鋤入れ）

齋主が鎮物を納める

齋主が鋤を手に取る（鋤入れ）

齋主が自席に着く

齋主、玉串拝礼をする

齋主が参列者の玉串を持つ

「次に地鎮の儀を執り行います。」

「（設計者）様お願いいたします。」

「（施工主）様お願いいたします。」

「（施工者）様お願いいたします。」

「次に玉串拝礼」

「ご参列の皆様にはご順に玉串を奉りて二拝二拍手一拝のご作法にてご拝礼いただきます。」

※玉串拝礼者の氏名を順に読み上げます。

※代表者に合わせて拝礼する場合もあります。

「次に、撤饌。」

「次に、昇神の儀。」

「ご起立の上、ご低頭ください。」

「お直りの上、ご着席ください。」

声）し終えたら

齋主が自席に着いた後

開式の辞

「以上をもちまして、〇〇邸地鎮祭を滞りなくお納めいたします。」

昇神の儀

撤饌

齋主が自席に着いた後

齋主が神前にて再拝を始めた後

昇神詞奏上・警蹕（オーという掛け

準備品について

準備品は祭典の種類に依りますが、一般的に、施工主・施工側で用意して頂く物は、青竹四本・荒縄・盛り砂・地鎮祭のみですが、テント・机・椅子（参列者用）等も用意すると良いでしょう。

神社に依って用意する準備品が異なりますので、必ず確認しましょう。

施工主・施工者はよく相談して準備を進めましょう。

家破い等、屋内で執り行う場合は、祭壇・祭具・神饌を準備します。祭典が行えるように室内に空間を設けて下さい。

地鎮祭を簡単に行ってください

祭典を簡単に行うことは不可能です。「簡単にしたい」という気持ちで参列、奉仕するのは神さまに対して不敬にあたります。事情で十分な設営ができない場合は神職に相談しましょう。

※これは行事・作法・典儀(司会者台詞)の一例です。